

メルケル独首相が党首続投を断念 次期首相レースの幕開け、独政局は流動化へ

欧米調査部上席主任エコノミスト

吉田健一郎

03-3591-1265

kenichiro.yoshida@mizuho-ri.co.jp

- ドイツのアンゲラ・メルケル首相は、10月29日に演説を行い、12月に予定されていたキリスト教民主同盟（CDU）の党首選に立候補しないことを表明した。
- メルケル首相が党首職続投の断念に追い込まれた最大の要因は、首相が主導してきた難民政策にある。大連立政権における与党間の対立も、支持率低下に拍車をかけた。
- メルケル首相の後任レースは既に始まっている。メルケル首相は2021年の任期まで首相職を続投する意向を示しているが、首相続投の可否は次期党首次第であろう。

1. メルケル独首相は12月党首選への不出馬を表明

ドイツのアンゲラ・メルケル首相は、10月29日に演説を行い、12月に予定されていたキリスト教民主同盟（CDU）の党首選に立候補しないことを表明した。10月28日に行われたヘッセン州の州議会選挙で事実上の敗北を喫したことを受け、その責任を取った。中央政府におけるCDU、キリスト教社会同盟（CSU）、社会民主党（SPD）の3党による大連立政権の運営失敗が、ヘッセン州議会選挙でのCDU敗北の要因とされ、メルケル首相の責任論が浮上していた。

CDUの支持率が低迷し、メルケル首相が党首職続投の断念に追い込まれた最大の要因は、首相が主導してきた難民政策にある。欧州難民危機の最中の2015年9月に、メルケル首相が自国への難民受け入れを容認して以降、大量のシリア難民がドイツに入国した。この決断は当初は国民から受け入れられたが、その後、2015年末から2016年初にかけて起きたケルンにおける暴動事件などを経て、国民の間で大量の難民流入に対する不安が高まった。

ドイツのための選択肢（AfD）など国内の極右政党は、移民流入に伴う国民の不安心理をあおりCDU支持者の取り崩しを図った。この結果、2017年9月の連邦議会選挙でCDUは、比較第一党の座を得たものの、得票率は戦後2番目に低い水準となるなど、事実上の敗北を喫した。

選挙後、約半年の連立協議の上、2018年3月にメルケル首相はCSU、SPDとの大連立を発足させたが、政権内ではメルケル首相とCSUのホルスト・ゼーホーファー党首との難民政策を巡る対立が先鋭化した。例えば、6月には内相でもあるゼーホーファー党首が他のEU加盟国で申請済みの難民は入国を拒否して強制送還するように要求し、EU他国との合意を優先させるメルケル首相と全面的に対立した。更に、8月にはケムニッツ市で難民2名によるドイツ国籍男性の殺害事件が起こり、この事件に関連して極右擁護発言を行ったハンス＝ゲオルク・マーセン連邦憲法擁護庁長官の処遇を巡りSPDとCSUが対立、仲裁をしたメルケル首相の対応が世論の批判の的となった¹。

大連立政権内の争いは、CDUだけでなく州議会選挙におけるCSUやSPDの得票率をも大きく押し下げた。バイエルン州の地域政党であるCSUは、10月14日に行われた同州の州議会選挙で過半議席を大きく下回る歴史的な大敗を喫し²、SPDもバイエルン、ヘッセン両州の選挙で大きく得票率を落とした(図表1)。SPDのアンドレア・ナーレス党首は、ヘッセン州の選挙結果を受けて「連邦議会の状況が、ヘッセン州におけるSPDの敗北に大きく影響」し、現在の政府の状況は「受け入れられない」と述べ、12月までに改善を要求していた。特にSPDは、メルケル首相とゼーホーファー党首の問題が重荷になっていると指摘し、両者に圧力をかけていた。

2. 流動化する独政局、既に始まっている次期首相レース

CDUの次期党首は独首相となる可能性が高く、メルケル首相の後任レースは既に始まっている(図表2)。主要な候補者としては、フリードリヒ・メルツ元院内総務、アンネグレート・クランプ=カレンバウアー幹事長、イエンス・シュパーン保健相、ノルトライン=ヴェストファーレン州のアルミン・ラシェット州首相などの名前が挙がっている。独紙報道によれば、クランプ=カレンバウアー幹事長、シュパーン保健相は既にCDU党首選へ立候補する意思を示している。

弁護士でもあるメルツ元院内総務は、メルケル首相のかつての政敵であり、メルケル首相が権力を掌握した後、2009年には議員を辞職している。しかし、独紙報道によれば、その後も政界とは近い関係を保ち続け、保守的な政治姿勢や親ビジネスの姿勢などもあり、政界からは待望論が強いようだ³。

クランプ=カレンバウアー幹事長は、前ザールラント州首相であり、メルケル首相の後継と目されている。中央政界での経験は浅いものの、州首相としての手腕には定評がある。政治スタンスはメルケル首相と近いものの、難民問題では首相と一定の距離を置いてきた。2018年2月にCDU幹事長に選出される過程では98.6%の党員の支持を集めるなど、党内での人気も高い。

図表1 独州議会選挙の結果

		バイエルン州 (10/14)	ヘッセン州 (10/28)
キリスト教民主同盟 (CDU)	今回	-	27.0
	(前回)	-	(38.3)
キリスト教社会同盟 (CSU)	今回	37.2	-
	(前回)	(47.7)	-
社会民主党 (SPD)	今回	9.7	19.8
	(前回)	(20.6)	(30.7)
同盟90/緑の党 Alliance90/Greens)	今回	17.5	19.8
	(前回)	(8.6)	(11.1)
自由民主党 (FDP)	今回	5.1	7.5
	(前回)	(3.3)	(5.0)
ドイツのための選択 党(AfD)	今回	10.2	13.1
	(前回)	-	(4.1)
左翼党 (Linke)	今回	3.2	6.3
	(前回)	-	(5.2)
自由な有権者 (FW)	今回	11.6	-
	(前回)	(9.0)	-
その他	今回	5.4	6.5

(資料) バイエルン州、ヘッセン州より、みずほ総合研究所作成

図表2 CDUの次期党首候補

氏名	役職	年齢	政治スタンスなど
フリードリヒ・メルツ	元院内総務	62	メルケル首相の政敵であり、2002年に清掃に敗れた後、2009年に政界を引退。ブラックロック・ドイツの代表を務めるなどビジネスより。思想的には保守。
アンネグレート・クランプ=カレンバウアー	幹事長	56	メルケル首相の後継と目される。前ザールラント州首相、政治手腕には一定の評価。
イエンス・シュパーン	保健相	38	メルケル首相批判の急先鋒であり、若手期待の星。党内最右派であり、反難民や反イスラムを主張して台頭。
アルミン・ラシェット	ノルトライン・ヴェストファーレン州首相	57	NRW州は、CDUの最大の地盤でルール地方を含む工業地帯。メルケル首相寄りのスタンス。CDU副党首の一人。
ダニエル・ギュンター	シュレスウィヒ・ホルシュタイン州首相	45	政策的には、メルケル首相に近いとみられる。2017年5月の州議会選挙後、FDP、緑の党とのいわゆる「ジャマイカ連立」をまとめ上げた。
ウルズラ・フォンデアライエン	国防大臣	60	2013年の第3次メルケル政権の目玉人事として女性初の国防相に就任。第4次メルケル内閣でも留任。本人は出馬を否定。CDU副党首の一人。
ユリア・クレックナー	農業大臣	45	ラインラント・プファルツ州のCDU議会議員団長。CDU副党首の一人。

(資料) 各種報道等より、みずほ総合研究所作成

これに対してイエンス・シュパーン保健相は、反メルケルの急先鋒と目されている。これまでも難民政策などでメルケル首相を批判してきた。極右政党である「ドイツのための選択肢」のアレクサンダー・ガウランド共同代表は、メルケル首相辞任のニュースを受けて、「シュパーン保健相以外は、誰が党首となっても脅威ではない」と述べたことから明らかなとおり、政治スタンスとしては最右翼に位置する。

後任党首は、12月初旬の党大会において決まる。メルケル首相は、首相としての任期は2021年まで全うしたいと述べ、首相職にとどまる意向を示している。しかし、それは誰がCDUの次期党首になるかによる。メルケル首相に批判的なメルツ氏やシュパーン保健相が党首となった場合は、首相としての続投を認めないと考えられるからだ。

ドイツ基本法第63条によれば、連邦首相は、大統領の推薦に基づいて、連邦議会の過半数の票を得た者が選出され、大統領により任命される。解散権は大統領が有しており、どの候補も過半の信認を得られなければ解散総選挙に踏み切ることも可能だ⁴。しかし、仮に再選挙を行ったとしても今回の州議会選挙同様にAfDや緑の党が躍進する結果を招く可能性が高く、与党にとってメリットは何もない。筆者は、解散総選挙の可能性は低いと考えている。

メルケル首相は辞任発表の記者会見において「新しい時代の扉を開く時が来た」と述べた。CDUの党首としては18年、首相としては13年続いてきたメルケル時代の終焉は、ドイツのみならず欧州における一時代の区切りとなろう。新党首の下、ドイツがどのような方向に向かうのかは現時点では明らかではないが、ドイツにおいても既存政党の支持基盤は盤石とは言えなくなっている。多党連立が欧州における政権の常態となりつつあるなか、ドイツ国内の意思決定や政権運営はより難しさを増すこととなる。EUレベルでの意思決定や、欧州統合の行方にも影響を及ぼす可能性があるだろう。

¹ 2018年8月26日に東独ケムニッツ市において、難民2名によりドイツ国籍の男性が殺害された。これに対して、AfDなど極右勢力の呼びかけによる反難民の抗議集会が開かれ、更にそれらに対抗するデモも開催されて、一部で暴動となった。この際に、マーセン連邦憲法擁護庁長官が「外国人襲撃の確認はない」と発言、SPDはこれに強く抗議して同長官の罷免を要求するに至った。これに対して、CSUのゼーホーファー内相が同長官を擁護する発言を行ったために、SPDとCSUの対立に至った。メルケル首相は、マーセン長官を罷免するが内務事務次官に昇進させるという矛盾した対応を取ったため、世論の強い批判を受けた。

² CDUとCSUは選挙協定を結んでいるため、CSUの地盤であるバイエルン州ではCDUは立候補者を立てず、それ以外の州ではCSUは立候補者を立てない。CSUが過半議席を下回るのは2008年の州議会選挙以来だが、得票率は比例代表制となった1962年以降で最低。

³ 南ドイツ新聞によれば、2009年に議員辞職した後も政治活動を続け、近年ではNRW州のブレグジット代表担当となった。また、2017年に行われたショイブレ議長の誕生会では公式セレモニーの最前列に座っただけでなく、家族でのプライベート・パーティーにも招かれた。2018年10月29日付け南ドイツ新聞“Merkel und Merz waren wie Hund und Katze”。なお、2008年には書籍“Mehr Kapitalismus wagen（更なるキャピタリズムへの挑戦）”を出版するなど、市場主義的な立場をとっている。

⁴ 連邦大統領が議会を解散できるのは以下の二つのケースである。第一は、首相選出の過程で連邦議会で過半数を得る候補が最終的にいないとき（基本法第63条）、第二は、首相が自己の信任案を議会に提出して過半数を得られなかった場合である（基本法第68条）。しかし、第一の場合であっても、大統領は最多票を得た候補者を首相に任命することもできる。第二の場合でも他に過半数の支持を得られる首相候補がいた場合は、解散権は消失する。

●当レポートは情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しては、ご自身の判断にてなされますようお願い申し上げます。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。なお、当社は本情報を無償のみ提供しております。当社からの無償の情報提供をお望みにならない場合には、配信停止を希望する旨をお知らせ願います。